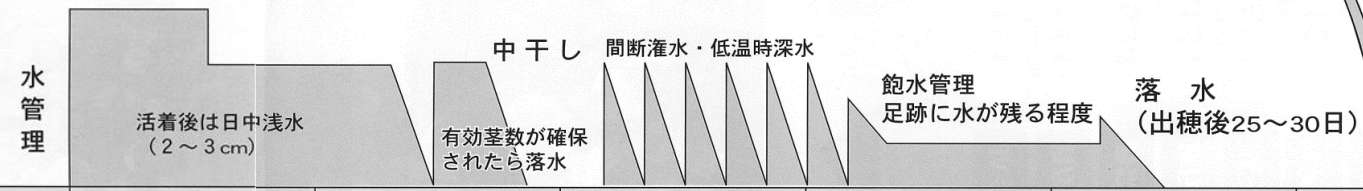
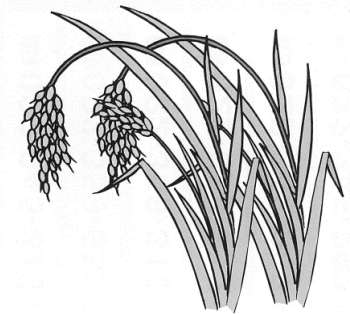


環境保全米栽培ごよみ

栽培指針

- ◎人にやさしい、自然にやさしい米作りをモットーとする。
- ◎産地間競争に打ち勝てる売れる米作りを行う。
- ◎毎年、全量種子更新を行う。
- ◎生産履歴簿を記帳(トレーサビリティ)し、消費者に開示する。
- ◎環境保全を常に意識した農産物生産に努める。



前年10月~3月

4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月														
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下												
●土づくり			●播種			●田植			●分けつ開始			●有効分けつ終止期			●幼穂形成期			●減数分裂期			●出穂			●穂揃期			●成熟期			●稲刈り		

土づくり・施肥 (10a当り)

1. 土づくり

「郷の有機」特別栽培米	環境保全米「Cタイプ」(いずれか選択)
完熟堆肥 1トン以上施用	稲わら(豆殻)全量すき込み
「郷の有機」を施用500kg/10a	とれ太郎 40~80kg/10a 混合りん肥 120~160kg/10a

※「郷の有機」特別栽培米は必要に応じてとれ太郎・混合りん肥を散布する。
※稲わらの腐熟促進にはワラ分解キングを使用する。

2. 施肥 (10a当り)

区分	ひとめぼれ	ササニシキ	コシヒカリ	つや姫	まなむすめ
基肥	あさひな特別栽培専用肥料 有機入り化成046号	40kg			
追肥	あさひな特別栽培専用肥料 有機入り化成046号	20kg	10kg	10kg	20kg
追肥	エコペースト854	50kg			
追肥	あさひな特別栽培専用肥料 有機入り化成046号	20kg	10kg	10kg	20kg
追肥	みやぎ米有機一発290	50kg			
追肥	みやぎ米有機一発499	40kg			

※上記を上限に実施する。
※有機アグレット又はナチュラル有機P3号は補用として基肥・追肥に使用できます。(有機態100%のため上限なし)

※育苗期から追肥までで化学窒素施用量を3.5kg以内とする。
※追肥は有機態肥料ですので、化学肥料より10日早めに実施する。
※食味を良くするため、出穂後の追肥はしない。

育苗・田植・水管理

1. 育苗

種子は全量更新する。
薄蒔きで健苗育成(120~150g/箱・催芽初)

タチガレン粉剤・液剤は使用できません。

播種前	播種時	緑化時期
過リン酸石灰(粉)を8g/箱混和	タフブロック:200倍液を200ml/箱灌中	過リン酸石灰(粉)3~5kgを100ℓの水に溶かし上澄液を300箱へ灌中 水洗必要
畑のカルシウムを50g/箱混和	アグリボEX:1000倍液を500ml/箱灌中	アグリボEX:500倍液を500ml/箱灌中
		ソイルサブリエキス:200倍液を500ml/箱灌中

2. 田植

- 田植時期 5月5日~15日を目安とする。
- 植付本数 3~4本とする。
- 栽植密度 60~70株/坪
- ※ほ場肥沃度合いにより加減が必要。

3. 水管理

- 田植後は活着するまで葉先が2~3cm出る程度とし、その後、浅水とする。
- 茎数が20本程度確保されたら無効茎を抑えるため中干しする。
- 中干し後は間断灌水により、根の健全化に努める。
- 出穂後は飽水管理(足跡に水が残る程度)とし、登熟期まで根の健全化に努め、登熟向上を図る。
- 落水は出穂後25日以降とし、早期落水はしない。

除草剤・病虫害駆除

1. 除草剤

一発剤	剤型	使用量(10a)	散布適期	使用時期	成分数
コメット	1キロ粒剤	1kg	代かき後から雑草は動き出します。	移植時~ノビエ2.5葉期	3成分
	フロアブル	500ml	使用時期内で早めに散布しましょう。	移植後5日~ノビエ2.5葉期	
	ジャンボ	バケ10個(300g)		移植後5日~ノビエ2.5葉期	
	顆粒	80g		移植時~ノビエ2.5葉期	
バサグラン(必要あれば)	粒剤	3kg		移植後15~55日(但し、収穫60日前まで)	1成分
	液剤	500~700ml		移植後15~55日(但し、収穫50日前まで)	

※それぞれ剤型を1つ選択する。

2. 病虫害駆除 (※農薬散布時はトリフト(飛散)に注意する。)

薬剤名	使用量	使用時期・方法	成分数
Dr.オリゼフェルテラ粒剤(箱処理剤)	1箱当り50g	緑化期~移植当日、均一に散布	2成分
創象オリゼメートフルテラ顆粒水和剤	500g/10a	移植時、ペスト肥料に混合し使用	

- 穂いもち…薬剤による防除はしない。
- 畑のカルシウムや珪酸質肥料を施用し穂体強化に努める。
- 稲こじ病…Zボルドー粉剤DL(成分カウントなし)を出穂20日~10日前に散布する。
- 紋枯れ病…バリダシ粉剤DL(成分カウントなし)を散布する。(収穫14日前まで)
- カメムシ類…出穂10日前までに圃場周辺の草刈を終了する。

3. カメムシ防除 (穂揃期+乳熟期)

薬剤名	剤型	使用量(10a)	成分数	薬剤名	剤型	使用量(10a)	成分数
スタークル	粉剤DL	3kg	1成分	トレボン	粉剤DL	3kg	1成分
	液剤10	1000倍 60~150ℓ			乳剤	2000倍 60~150ℓ	

刈取・乾燥・調整

1. 適期刈り取り

◎積算温度を勘案し、適期刈取を励行する(出穂後40~50日を目安とする)

品種名	出穂期後の積算気温	出穂期後の日数
ひとめぼれ	940~1,100℃	42~50日
ササニシキ	960~1,170℃	43~53日
コシヒカリ	1,000~1,150℃	45~53日
まなむすめ	960~1,100℃	43~50日
つや姫	1,000~1,200℃	45~54日

2. 乾燥・調整

※過乾燥の防止(胴割粒の防止) 低温乾燥に努めましょう!
※適正水分の確保 \rightarrow [14.5~15.0%]
※ライスグレーダーの網目は1.90ミリ(LL)
※適正量目の確保

皆掛重量	
紙袋	30.6kg
フレコン	1,092kg

※異品種混入・異物混入の無いように機械等の清掃を確実にしましょう!